

# ・27

天正遣欧少年使節の首席正使、伊東マンシヨ(1569ごろ〜1612)の肖像画の特別展示会(7月10日まで東京国立博物館)に合わせて来日。21日、マンシヨの生誕地、宮崎県西都市を講演のため初めて訪れた。

## 伊東マンシヨ肖像画展で来日したイタリアの財団理事長 G・A・トリブルツィオさん



のかと感慨深く思った。出発時に13歳の少年。1500年代の航海はどんなに大変だったのだろう」

理事を務めるイタリア・ミラノのトリブルツィオ財団の調査で、誰の絵か分からなかった東洋的な顔立ちの肖像画が、マンシヨだと判明した

のは2014年。それまで、日本の少年使節の存在さえ知らなかったが、「調べてみれば、イタリアにきた初めての日本人。油絵に描かれた初めての日本人。これは驚きだった」。

マンシヨは豊後のキリシタン大名、大友宗麟の名代として1582年に長崎を出航。生死を懸けた2年半の航海の末、ポルトガルに到着し、スペイン国王やローマ法王に謁見した。初めての訪欧使節として日本外交史にその名を刻んでいる。肖像画はベネチアの有名な工房の作で縦54センチ、横43センチ。当時のイタリアの服装に身を包み、日本代表を意識したのか、若いのに威厳をにじませる表情が印象的だ。長崎市の長崎歴史文化博物館(7月22日〜8月31日)と宮崎市の県立美術館(9月9日〜10月16日)でも展示される。「400年を経て里帰りした肖像画。じっくりと見ていただきたい」。ミラノ在住、65歳。(中山憲康)

「飛行機から宮崎の地を見下ろした時、これがマンシヨが見ていた海か、この海を越えてイタリアまでやって来た